

私立短期大学図書館協議会

会報

編集者
網本・菅原
発行者
もり・きよし
私立短期大学図書館協議会

1983. 9. No.13

Bulletin of Junior College Library Association



第2回短期大学図書館全国研修会記録

テーマ：マイコンによる図書館業務処理

日時：8月1日～6日 9:00～17:00

会場：NEC・BIT-INN大阪

主催：近畿地区私立短期大学図書館協議会

協賛：(株)日本電気 (株)大塚商会 (株)ミカサ商事

(株)コーラル (株)NEC・BIT-INN大

阪 専門図書館関西地区協議会

使用機種：NEC・PC9801システム

昨年の第1回研修会以後強まった“再度マイコンを”の声にこたえて、今回は研修内容をマイコンに限定した。短大図書館、その他からの参加者を3つのグループに分け、各グループ(約60名)が2日間、計6日間に亘って開催された。

今回は、漢字処理ができる対話形式のプログラムを使用した。各業務で項目を設定・入力しておけば、メニューを選択しファンクション・キーを叩くだけで、様々な形で出力ができる。機械の操作は、国学院大学栃木学園の方式に従い、画面と講師の指示どおりに行なった。

研修のおもな内容

1. 講演「マイコンと図書館」(片山喜八郎氏)

我館では、業務処理にマイコンを採用している。その際、専門知識はほとんど必要としない。それくらいマイコンは身近なものとなってきた。我館の例を示しながら研修をすすめてゆく。そして、マイコンの便利さと、その無限ともいえる応用面での可能性を感じとってほしい。

2. 実習「操作の基礎」(指導：大塚商会)

プログラムPC-PAL日本語の教材用データを使用して、操作の練習を行なった。

3. 実習「雑誌管理①～Data・Boxによる～」

(指導：香山正恵氏)

特定雑誌の呼び出し、最新号の登録、所蔵状況チェック、価格・累計価格の表示などを実行した。

4. 実習「雑誌管理②～PC-PAL日本語による～」

(指導：角江和美氏)

3の実行内容の他、欠号雑誌の表示、雑誌の種別分類等を実行した。

5. 実習「情報検索～PARAM-K1による～」

(指導：中村佐恵子氏)

①近代文学作品索引 「〇〇〇」で始まる作品を求める条件検索、「永井荷風」を「ナガサ」の略語で入力させるなどの熟語変換、著者名順・作品名順の表示等を実行した。

②雑誌記事索引 特定主題語(例：「徒然草」記事中の位置は問わない)による検索、特定主題に関するファイル作成、レコードの並べ替え等を実行した。

6. 実習「貸出管理～専用プログラムによる～」

(指導：菊地俊一氏)

貸出、返却処理、予約受付、返却の督促、貸出統計作成等を実行した。このプログラムには、時計が内蔵されており、貸出日・返却期限は自動的に記録される。

7. 質疑応答「マイコンと図書館Q&A」

(回答：講師一同)

8. 実習「図書管理～専用プログラムによる～」

(指導：太田映子氏)

選書委員会資料、書店別発注票、予算管理、受入業務目録カード用原稿作成、収書速報、年間増加図書目録作成等を実行した。

8月22～23日、東京の大塚OAセンター(本社)で、大阪の研修会に参加できなかった申込者を対象に、再度研修会を開催した。ここでの内容は、大阪とはほぼ同様であるが、音響カプラーを用いて、通信衛生経由で、ロックード社(USA)のデータベースから情報を受けると言う、マイコンでは画期的な実験を行なった。

今回の研修会でも、各協賛団体から、機械、プログラム、会場提供等で全面的な御支援をいただいた。また、国学院大学栃木学園には、片山館長をはじめ館員の皆様に準備段階による日常業務への犠牲、大阪への講師としての出席(その間、図書館に1人だけ残し)、菊地俊一氏の昼夜兼行でのプログラム作成等、想像を絶する御尽力をいただいた。さらに、専門図書館協議会にも多大な御

協力をいただいた。

これまでのマイコン研修会はすべて、各協賛団体、国学院大学栃木学園他の、人的、物的、金銭的な御厚意と犠牲とによって、成功裡に開催できた。本協議会としては、このような形で研修会を続行することは許されない。今後これらの御支援に応えるべく、短大図書館のコンピュータ化される日が、一日も早く到来することを期待する。

なお、実習4と8で使用されたプログラム(菊地俊一氏作成)が、この10月、伊藤伊から発売される。

また、片山喜八郎氏は、図解による、全くの初心者向けの、図書館業務とマイコンに関するマニュアルの出版を計画されている。

「マイコンによる図書館業務処理」の研修会を終えて

渡 辺 敏 一

今年度の短期大学図書館全国研修会は、研修会記録のように、大阪会場と東京会場の2度にわたって開催された。当初は、近畿地区私立短大図書館協議会との共催による大阪会場のみを予定していた。しかし全国の様々な図書館から400名を超える参加申込みが殺到した。またこの申込者の中には、図書館界で最もコンピューターの活用が進んでいる医・薬学系の大学や、大企業の研究所等からの申込みが多数含まれていた。そしてこのこととの関連で、専門図書館協議会からは、一定の参加人員枠を自組織加盟館のために認めてほしい旨の達って申入れがあった。これらの現象は、手前味噌ではあるが、この分野における私どもの実践の先進性を実証するものと理解している。

研修会へ対するこのような熱い期待に応える上で、大阪会場の受入可能人員160名は如何とも少なすぎるため、この会の実質的主催者である片山喜八郎先生にご相談申し上げ、急速東京会場の追加開催を決意した。それでも約150名の方には、参加を断念していただくを得なかった。

研修会の内容については、紙幅の都合で詳細を紹介できかねるが、別記のように、図書館業務の全般にわたるマイコンでの処理を研修していただいた。ところで、この研修会のために私どもが準備したマイコン・システムは、次のような特色を有している。第一に、高価な汎用コンピュータと同様の図書館業務処理が可能である。(従来のマイコンでは困難であった漢字処理や、バーコードリーダーの活用、更には大型データベースを利用したの情報検索も可能)、第二に、キーボード(マイコンのタイ

プライター部分)の操作に習熟しさえすれば、コンピュータについて全くの初心者でも、図書館業務への活用が可能であること。第三に、そのトータル価格が百数十万円と低廉であること。このシステムは、既に紹介してきた通り、片山先生を中心とする国学院大学栃木学園図書館の方々(とくに菊地俊一氏)が、図書館実践に徹しきった営みの中からつくりだしてきたものである。さいわい、このシステムは研修会で好評を博すとともに、OA機器専門商社や図書館用品メーカーからも高い評価をうけた。そこで、このシステムの詳細な案内書として、「マイコンによる図書館業務処理」(仮題)という本を、目下片山先生に執筆していただいている。今年末には刊行できる予定である。またシステム自体については、更にその完成度をたかめて、今年10月頃には(株)伊藤伊より、日本で初めてのマイコンによる図書館トータルシステムとして販売されることになった。これを契機に、短大図書館でのコンピュータ活用の促進が期待される。

なお念のために申し添えれば、この図書館システムの販売は、私立短期大学図書館協議会の事業でもなければ、いわんや国学院大学栃木学園図書館のそれでもない。したがって、この販売による物質的恩恵は皆無である。もっと直截に言えば、マイコンの活用で短大図書館が飛躍することを希って、国学院大学栃木学園図書館がこのシステム開発のために宮々として蓄積してきたノウハウの全てを、関係業者へ提供することにより、この販売は実現できたものである。

この夏は、研修会とともに過ぎ去った。暑く忙しい日々から解放された今は、まさに「戦いすんで日が暮れて」

の想いが深い。私自身についていえば、主催者たる私立短大図書館協議会の直接担当者として、片山先生の指示にそって様々な事務処理を手がけてきたにすぎない。それでも、この会の準備等だけで、昨年夏以来の一年間、かなりのエネルギーを必要とした。いわんや前述のように、システム開発や研修内容の準備、さらに延8日間にわたる研修会の指導と、まさに超人的な仕事を担当された片山先生と同図書館の方々のご苦勞は、私の想像をも超えるものがある。このすさまじい犠牲的援助に対しては、お礼の言葉も見当らないが、只々衷心よりお礼申し上げる次第です。

最後に、片山先生とともにこの2年余、一貫してマイコンと図書館業務の関わり合いを追求し続け、その成果を数度にわたり研修会の場で紹介してきた。それは、マイコンが「ないないづくしの短大図書館にとって、あわよくば救世主たりうる存在として、熱い期待感をもたらすものだったから」にはかならない。私どもの歩みが、ようやく一つの到達点に達した現在、来し方往來についての様々な想いが、胸中をよぎる。願わくば、私どものこれまでの歩みが、明日の短大図書館界飛躍の契機へと結びつくことを、切に祈るものである。

(私立短期大学図書館協議会事務局)

記

昭和58年度 短期大学図書館全国研修会(第2回)

テーマ：マイコンによる図書館業務処理

日時・会場・参加者

大阪会場(NEC BIT-INN OSAKA)8.1~6 (162名)

東京会場(大塚商会OAセンター)8.22~23 (80名)

内容：第1日目

- ①講演「マイコンと図書館」片山喜八郎氏
- ②実習「マイコン操作の基礎」大塚商会
- ③実習「雑誌管理」角江・香山両氏
- ④実習「情報検索」中村氏

第2日目

- ①実習「図書管理」太田氏
- ②討議「マイコンと図書館Q&A」
- ③実習「貸出管理」菊地氏

東京会場のみ、上記の他に大型データベース「DIALOG」のオンライン検索とマイコン同志のネットワーク処理の実演を行なった。また指導者については、東京会場の場合一部変更。



昭和58年度 私立短図協総会記録

日時：昭和58年8月5日 午前9:40~12:00

場所：大阪 大阪府商工会館 6階

参加：出席者34名 委任状126名 計160名

安部常任理事(元別府大学短大部)の司会で開会、もり会長から本会も今年で創立7年目となり、1区切りがついて次の区切りに入った。IFLA東京大会日本委員会にも参加、また全図連加盟は現在棚上げ状態だが、今後公立短図協との連絡を密にして、機械化、参考図書の充実をはかっていきたいとのあいさつがあり、岩井氏(佐賀女子短大)を議長に選んで議事に移った。

1. 昭和57年度会勢および事業報告(安部・渡辺)

- ①会勢 昭和58年3月末現在223館以後9館加盟、昭和58年8月5日現在232館
- ②事業報告(渡辺・菅原・有岡)

△本部役員会の開催 △理事会の開催 △昭和47年度総会の開催 △第1回短期大学図書館全国研修会の開

催 △会報の刊行(10.11.12号) △短期大学図書館研究No.4の刊行 △IFLA日本委員会への加盟と東京大会準備委員会での活動 △地区助成、JLA短大図書館部会への協力、出版活動等

2. 昭和57年度地区協議会活動報告(各地区理事) 7P参照
3. 昭和57年度決算および会計監査報告(渡辺・宮島) 4P参照
4. 昭和58年度事業計画および予算案(安部) 4P参照
5. 昭和58.59年度役員選出(林氏提案)

新役員の選出を終えたところで、もり会長が改めてあいさつ、また安部・芝原理事が退任のさいさつがあり、以下新役員紹介があった。なお役員分担については新役員会で決定する。

6. その他、林氏より提案、役員で理事の定数を10名とすることを決議し正午に閉会した。

一般会計（私立短期大学図書館協議会）

昭和57年度決算

〔収入の部〕

| 勘定科目 | 予算 | 決算 | 備考 |
|----------|-----------|-----------|---------------|
| 会費 | 1,880,000 | 1,784,000 | 加盟館223×8,000円 |
| 全国研修会参加費 | 700,000 | 735,000 | |
| “分担金 | 0 | 70,000 | 共催の関東地区協負担分 |
| 雑収入 | 2,000 | 1,576 | 預金利息 |
| 前年度繰越金 | 11,781 | 11,781 | |
| 計 | 2,593,781 | 2,602,357 | |

〔支出の部〕

| 勘定科目 | 予算 | 決算 | 備考 |
|-----------|-----------|-----------|---------------|
| 事業費 | | | |
| 総会・研修会開催費 | 950,000 | 1,006,170 | |
| 会報刊行費 | 200,000 | 165,000 | №10～12の3号分 |
| 地区交付金 | 470,000 | 446,000 | 223館×2,000 |
| 地区活動助成金 | 420,000 | 440,000 | 一地区60,000×7ほか |
| 全図連加盟負担金 | 10,000 | 0 | |
| 会議費 | | | |
| 全国理事会 | 65,000 | 73,296 | |
| 本部役員会 | 70,000 | 99,174 | |
| 事務費 | | | |
| 消耗品費 | 20,000 | 23,460 | |
| 通信費 | 90,000 | 95,240 | |
| 役員交通費 | 140,000 | 140,000 | 14人×10,000 |
| 事務局費 | 30,000 | 30,000 | |
| 雑費 | 20,000 | 17,170 | |
| 予備費 | 108,781 | 0 | |
| 小計 | 2,593,781 | 2,535,510 | |
| 次年度繰越金 | 0 | 66,847 | |
| 合計 | 2,593,781 | 2,602,357 | |

昭和58年度予算

〔収入の部〕

| 勘定科目 | 予算 | 備考 |
|----------|-----------|----------------------|
| 会費 | 1,920,000 | 240館×8,000円 |
| 全国研修会参加費 | 1,150,000 | 7,000×105, 12,000×35 |
| 雑収入 | 3,153 | |
| 前年度繰越金 | 66,847 | |
| 計 | 3,140,000 | |

〔支出の部〕

| 勘定科目 | 予算 | 備考 |
|-----------|-----------|-------------|
| 事業費 | | |
| 総会開催費 | 80,000 | |
| 全国研修会開催費 | 1,210,000 | |
| 会報刊行費 | 190,000 | №13～15の3回分 |
| 地区交付金 | 480,000 | 240館×2,000 |
| 地区活動助成金 | 420,000 | 一地区60,000×7 |
| IFLA加盟負担金 | 40,000 | |
| 全図連加盟負担金 | 10,000 | |
| 会議費 | | |
| 全国理事会 | 100,000 | |
| 本部役員会 | 150,000 | |
| 事務費 | | |
| 消耗品費 | 20,000 | |
| 通信費 | 100,000 | |
| 役員交通費 | 180,000 | 18人×10,000 |
| 事務局費 | 30,000 | |
| 雑費 | 20,000 | |
| 予備費 | 110,000 | |
| 計 | 3,140,000 | |

出版事業特別会計

昭和57年度決算

〔収入の部〕

| 勘定科目 | 予算 | 決算 | 備考 |
|-----------|-----------|---------|------------|
| 売上収入(出版物) | 700,000 | 348,810 | |
| (その他) | 60,000 | 30,000 | マイコン・プログラム |
| 広告収入 | 300,000 | 510,000 | |
| 前年度繰越金 | 92,073 | 92,073 | |
| 合計 | 1,152,073 | 980,883 | |

〔支出の部〕

| 勘定科目 | 予算 | 決算 | 備考 |
|--------|-----------|---------|----------------------|
| 発送経費 | 143,000 | 76,500 | |
| PR経費 | 90,000 | 53,000 | |
| 印刷経費 | 900,000 | 722,100 | 紀要№4のみ発行 名簿の発行は保留 |
| 予備費 | 19,073 | 0 | |
| 小計 | 1,152,073 | 851,600 | |
| 次年度繰越金 | 0 | 129,283 | |
| 合計 | 1,152,073 | 980,883 | |

昭和58年度予算

〔収入の部〕

| 勘定科目 | 予算 | 備考 |
|--------|-----------|----|
| 売上収入 | 450,000 | |
| 広告収入 | 450,000 | |
| 雑収入 | 717 | |
| 前年度繰越金 | 129,283 | |
| 合計 | 1,030,000 | |

〔支出の部〕

| 勘定科目 | 予算 | 備考 |
|------|-----------|------------|
| 発送経費 | 130,000 | |
| PR経費 | 70,000 | 紀要№5刊行費として |
| 印刷経費 | 730,000 | |
| 予備費 | 100,000 | |
| 合計 | 1,030,000 | |

長 沢 喬 子

今春、就任早々の館長と話し合う機会がもたれた。学生の図書館利用に話題が移った時、目録も引けず、自分で必要とする資料を見つけられない学生が多いのではないかという現実の問題にぶつかり、館長には入学時のオリエンテーションで、利用案内による説明と館内案内をクラスごと班を設けて行っていることを話した。館長からは、目録をきちっと引ける様国文科の卒論ゼミ2年生の為に話して欲しいと、画期的な要望が出されたのである。初めてのことであるので、7月頃をめぐりと考えていたのだが、結局5月下旬から6月始めに行うことに決定し、内容は目録カードの引き方、二次資料の使い方、文献収集の方法として、そのための資料をゼミのある1週間前に配布するという段取りで準備を進めていった。ゼミ自体、卒論のテーマごとにほとんど構成されているので、各自がその資料をもとに、与えられた90分をどのように使って説明するかは、まったく自由であるとし、極端な言い方をすれば、その資料を使うことなく行ったとしても良いと言うことであった。冒険と思われるやり方であったかもしれない。しかし、当日、館員はともかく説明し、館長の無法とも思われる提案(最終的には国文科の依頼ということになったのであるが……)に乗かって、ゼミの90分という時間をフルに使って、卒論ゼミに対する図書館利用法を話したのである。その後の反省会では毎年学科に関係なく行ないたいとの声が出たのは当然のことであった。その効果は、図書館の中に、わず

かであるが見えはじめている。目録については、まず引いてみようとの学生の姿勢が見られるし、なかには、配布した資料を机に広げ、学生がいたりして、私などは両手で拍手したい衝動にかられている。ある先生が、ゼミの学生に、このような説明を来年もして欲しいかどうか、尋ねられた時、全員が賛成してくれたとの朗報もあつたりして、自信も準備も万全ではなく望んでしまった私などは、涙の出る程嬉しかったし、このチャンスを作って下さった館長に感謝せざるを得なかった。

我が図書館の春の嵐のごとく起った利用教育の体験を書いてしまったが、利用教育の必要性は、最近とみに増している。「私立短期大学総覧」の集計・分析編によると、利用教育の実施は91.9%なされてはいるが、利用案内による説明と館内案内であり、スライドや簡単な実習によっている館は10%に満たない。また、年間利用教育計画のあるものは7.7%であり、現実においては数例の先進的ケースを除いては、まったくなされてはいないといえる。確かにformalな利用教育の必要性は充分感じている。反対に、Informalな利用教育は、さらに重要であることは言うまでもない。我が図書館の春の嵐をどこまで継続していくかは、今後の大きな課題である。最終的には、日常業務の中での学生に対する私達館員の対応の仕方が、春の嵐を大きくしていく源となることはまちがいないと切実に思うのである。

(静岡英和女学院短期大学図書館)

昭和58・59年度私立短図協役員紹介

会 長 も り きよし(青葉学園短大)
 監 査 松 本 久 子(関東学院女子短大)
 監 査 宮 島 敬 久(共立女子短大)
 常任理事 有 岡 章(鶴見大学女子短大部)
 理 事 網 本 正 己(調布学園短大)
 理 事 片 山 喜八郎(国学院大学栃木短大)
 理 事 菅 原 春 雄(文教大学女子短大)
 理 事 鈴 木 英 二(千葉経済短大)
 理 事 井 上 千賀子(共立女子短大)
 理事(事務局)渡 辺 敏 一(東京女子大学短大部)
 理 事 山 井 康 司(日本体育大学女子短大部)
 理 事 吉 岡 盤 彦(相模女子大学短大部)
 理 事 高 橋 道 枝(鶴見大学女子短大部)

現地区役員

北 海 道地区理事 坂本 龍三(北海道武蔵女子短大)
 東 北地区理事 中村 泰正(山形女子短大)
 ○ 関東甲信越地区理事 高尾 清(日本経済短大)
 ○ “ 地区理事 中林美智子(目白学園女子短大)
 東海・北陸地区理事 千葉 善根(愛知叔徳短大)
 近 畿地区理事 八田 義一(神戸山手女子短大)
 中国・四国地区理事 村上 義幸(美作女子大学短大部)
 九 州地区理事 波多野栄子(福岡女学院短大)
 ○印は、役員を兼任
 退任:安部 竺 己(元別府大学短大)
 芝原 翠(東洋英和女学院短大)
 杉山敏子(フェリス女学院短大)

〈短大図書館めぐり 第11回〉

短大!! それは修業年限が短く、学生数も少ないばかりかさらにその他の設備等、4年制の大学側から見ると誠に「貧弱な」といわれるかもしれない。その歴史が浅いだけに図書館—その設備・資料そしてスタッフの面でも決して例外ではない。4年制の大学に併設或いは共有の場合は良いとしても、特に多くの私立短大ではそれぞれ独自の事情のもとに数々の課題をかゝえて努力しており、全く後進・発展途上の感がある。

なんとか竣工式をすませ、移転そして開館——どうやら日常業務が軌道にのったかと思われるような折「感想」をとの事である。これから訪れ、同じような道をたどる人のためだという。

では簡単にご案内しましょう。交通渋滞でも知られる明治通、新宿区戸山。左側に戸塚第1中学、右の戸山高校にはさまれた正門、構造やデザインが優れているという事から重文指定の鉄門がある。神田錦町に学習院が創立された時の正門とか。桜並木と紫陽花の狭い道を進むと、やがて左側に近衛騎兵聯隊の兵舎だった赤煉瓦の校舎がある。その向い側が運動場でテニス・コートの一面をさいて敷地とした前川国男建築設計事務所と鹿島建設建築の新図書館である。建築名は学習院戸山図書館と称し、階段を下りた1階が女子高・中円でサンクガーデンを持ち、地面より階段を上ると2・3階が吹抜け方式の当短大図になっている。玄関を入ると右にガラス張りの談話室・雑誌コーナーそしてカウンターと参考図書(約5,700冊)と閲覧机があり、その奥が南面して広い事務室と共同研究室No.1~3、左に視聴覚ホールを配し、3階がビデオ(18台)コーナーをもった開架図書である。

短大図書館の延面積は約3,500㎡、収蔵能力開架約105,000冊、閉架書庫(将来エレコンを予定)209,000冊計約40万冊、座席数約300余。

設置学科は国文・英語・文化史・家庭生活科があり、教職・司書・司書教諭課程もあって、学生数1,300名を数える。

現蔵書約6万冊。収書方針としてはやはり少ない予算のため、各研究室配分額はその専門を、以外の因配分額は一般教養・参考図書等にあてられ、ささやかながら婦人関係・児童文学・書誌・書目・索引等にも留意している。スタッフは6名とアルバイト司書3名、今後は視聴覚方面の活動もということだが、時節柄事務縮少・人員削減の波も押し寄せてきている。どうなることだろうか?

学習院女子短期大学図書館

館内は学生の自主と良心による自由な図書館である。

図書館建築は、筆者にとって目白の大学図書館で遭遇したこともあり、幸か不幸か2度目、しかも同じ設計者である。建築委員が選出され、設計者の候補選定の時もしかしたらというひそかな予想は候補地とも的中した。

さて、竣工を迎えるまで、今までなし得なかった研究室に分散していた図書も一部を除いて新館に集中したし、函架の統一も目鼻がついた。あとは計画通り作業を継続すればよいし、これが完了すれば単に図書館が新築されたということだけではなく、利用者は大変使い易くなる。

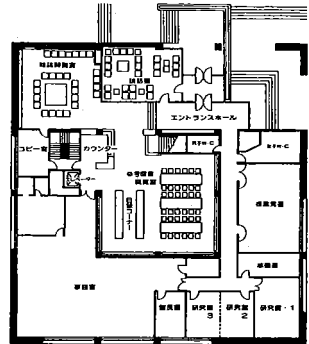
美術関係の富永文庫として3千余冊の寄贈も加わり一つの特徴が現われるとはいえ、これからが……という所でしょいか。

戦後の学制改革に伴い、短期大学制度の発足と共に創立、大変な財政難を切り抜けてきたのも、先輩の血の出るような努力が実を結んだのであろう。図書・その他をとりあえず借用して急場を凌いだ話など今はおそらく誰も信じないであろう。

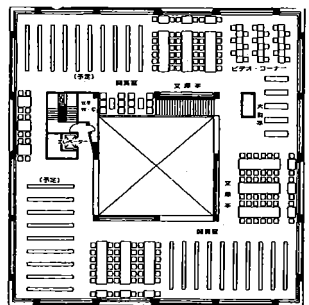
新図書館は静かに来館者を待っている。

(鈴木 一男)

2階(短大)



3階(短大)



〈地区活動報告〉

〈北海道地区〉

私短図北海道地区協議会では、さる5月13日(金)本年度の総会を(道武蔵女子短大において)開催した。

総会には加盟10館から16名が出席、議長には東昇(道女子短大図書館長)氏を選出して議事にはいり、昭和57年度の活動報告をおこない、ついで決算報告・監査報告があり、これらを承認する。

ついでおこなわれた昭和58・59年度の役員についてはつぎのように選出された。

幹事校 岩見沢駒沢短大 宮下 誠
 小樽女子短大 丸田謙二郎
 静修短大 溝淵 忠雄(会計担当)
 北星女子短大 志関 義昭
 道自動車短大 森 茂樹
 監事校 札幌大谷短大 柴田 泰
 会長校 道武蔵女子短大 坂本 龍三

ひきつづいて今年度の予算案等を承認、研修会・講演会の具体的計画については今後加盟各館と協議して決定することとなったが、なかでも今年度は、昨年度未すめられている「道地区短大所蔵逐次刊行物総合目録」(仮称)の刊行を予定しているが、時期については今年末とし、刊行費の大半は各加盟館がこれを負担することをほぼ了承された。

〈東北地区〉

「私立図協」東北地区図書館協議会の昭和58年度定例研修会は来る11月上旬、本協議会長もり・きよし先生をおむかえして開催することがきまった。研修テーマは、「短大図書館における資料整理と、これに関連する諸問題」、加盟館挙げての希望を結集したものであるが、日程等の詳細については後日発表する。

つぎに偶感2題

〔1〕“人間不在”の図書館

情報化時代においては、何よりも「能率」を第一義に考えたがる。図書館のもっとも肝要な業務としての「整理業務」について「能率」の名において「整理委託」(いわゆる外注)をしている図書館が短大図書館の中にも出てきたことだ。

しかしながら、年間3・4億円の図書購入予算をもっている図書館ならいざ知らず、どの点からみても中小図

書館としか考えられぬ館が「分類」等の業務を外注で済ませているということについて、どう解釈すべきであろうか。購入決定となった図書の受入れ業務、特に分類・図書記号・件名の決定等については館員すべての関心のもとに処理してゆくのが図書館本来のあり方であり、図書館業務の基盤であることに間違いはない。

分類・図書記号の決定には多くの時間を必要とするが新入館の図書の一冊一冊について、周倒着実な整理業務を進め、館内の資料のすべてに館員の心が通い合っているということが肝腎であって、能率・非能率という問題ではないと思う。

加藤宗厚氏は“図書館人の自戒十条”の中で、「図書館活動の基調は奉仕にあることを自覚したい」と言っているが、手作りの図書館の土台があってはじめてユーザーへの「奉仕」に万全を期することが出来、また、その時間も十分に生み出すことができるのである。

図書館の「機械化」ということばの魔術に引っかかって、“図書館運営の主体性は人間にある”という鉄則を忘れたくはないものである。

〔2〕復刻版「DEWEY+進分類法導言」の刊行

日本の近代図書館草創の功労者である故間宮不二雄氏の十三回忌追悼のため「不国会」同人代表であるもり・きよし先生によって「DEWEY+進分類法導言」復刻版が昨年刊行された(発売 伊藤伊商店)。奥附によると初版の刊行は昭和5年なので、54年前ということになる。

上記の書はNDCとのつながりをもっとも深い「Dewey+進分類法導言」の翻訳書で、もり先生の「刊語」によると翻訳者間宮氏は多忙の業務の間、毎夜三更に及ぶ寝食を忘れての研鑽を続け、不明の点は直接、Fellows女史に手紙をもって質問されたという。

54年前といえば、もり会長先生当時の京阪神在住の新進気鋭の青年図書館人の研究団体である“青年図書館員連盟”(LYL)の錚々たるメンバーであり、主唱者の間宮氏の片腕となって、文字通り八面六臂の活躍をされたわけである。NDCの現在における普及率と、国際的評価を考える時、並々ならぬ先人の労苦と、NDCを今日まで守り育ててこられたもり・きよし会長先生の偉業を思うものである。時あたかも本年は、もり・きよし先生の喜寿の賀年を迎えており、心から祝福の意を表するものである。(文責 中村泰正)

<関東甲信越地区>

<幹事会>

日時：昭和58年3月23日(月) 11:00～12:30

場所：日本図書館協会

議題：総会運営及び総会提出議題について審議し、幹事の改選にあたり常盤学園短大原子孝氏の辞任を認め補充しないことで了承され、理事、幹事の件は総会に一任することで承認された。

<講演会>

日時：昭和58年3月23日(月) 13:00～14:30

場所：同上

テーマ：「短期大学図書館における参考業務の在り方」
東京学芸大学教授 北島武彦氏

<総会>

日時：昭和58年3月23日(月) 15:00～16:30

場所：同上

- 議題
1. 昭和57年度事業報告
 2. 昭和57年度決算報告
 3. 昭和58年度事業計画及び予算について
 4. 理事及び幹事選出について

総会には26校31名の出席、委任校20校をもって行なわれ、議長に調布学園女子短大綱本正己氏を選出し議題について協議を行なった。上記の3件についてはいずれも承認され、第4議題については幹事1名欠員が了承され新役員が次のように選出された。

理事 日本経済短大 高尾 清
幹事 女子聖学院短大 上沢田 浩
幹事 千葉経済短大 古賀 実生
幹事 目白学園女子短大 中林美智子
幹事 静岡英和女学院短大 長沢 喬子
監査 武蔵野女子大短大部 井形 道雄

昭和58年6月より埼玉純真女子短大が新加盟され、関東甲信越地区は加盟館が71館となった。

<東海・北陸地区>

<昭和58年度第1回幹事会>

日時：昭和58年5月10日 午前11時～午後2時

場所：愛知淑徳短期大学

出席：8校

- 議題
1. 昭和57年度事業報告及び決算
 2. 昭和58年度事業計画及び予算案
 3. 雑誌目録刊行中間報告
 4. その他
 - (1) 会費及び会報購読料について
 - (2) 会員勧誘について

(3) 次期会長校について

(4) 本部次期会長候補の選考について

以上、1～4の報告及び提案について原案どおり承認された。規約第9条2項により総会の議決にかわるものとして採択された。会計監査については、内規第4条により役員の内外部監査で承認をうけた。

<雑誌目録刊行中間報告>

誌名：『東海・北陸地区私立短期大学図書館雑誌目録1982年版』

発行：昭和57年7月1日

部数：500部

宣伝：チラシ配布 8月25日 330校 紀要発送先 9月29日 378校 大学・短大 公共図書館

委託販売先：日本図書館協会。正文館書店(地元)

販売状況(58.5.1.現在)

直販 194冊(176館)

委託 21冊

> 計 215冊(残部 285冊)

<近畿地区>

<総会及び第14回研修会>

日時：昭和58年4月2日(土)

場所：平安女学院短期大学

参加者：24館40名

(総会)

1. 昭和57年度会勢・活動報告
2. 昭和57年度会計報告・会計監査報告
3. 昭和58, 59年度役員選出
理事校：神戸山手女子短大
幹事校：大谷女子短大, 平安女学院短大
会計監査校：大阪女学院短大

4. 昭和58年度事業計画

昭和58年8月上旬 短期大学図書館全国研修会
(本部・近畿地区の共催)

昭和58年10月下旬あるいは11月

図書館見学(見学館未定)

昭和59年3月あるいは4月上旬

研修会(内容未定)

5. 昭和58年度予算

(研修会)

「大学図書館の機械化とその問題点」

講師：茂幾周治氏(大阪大学附属図書館)

<近畿地区新加盟館及び退会館>

(加盟館)

京都文化短期大学

621 京都府亀岡市曾我部町南条

連絡責任者 司書 福田孝雄

神戸学院女子短期大学

653 神戸市長田区西山町2-3-3

連絡責任者 司書教諭 四方喜美子

湊川女子短期大学

669-16 兵庫県三田市四つ辻1430

連絡責任者 図書館係長 入江秀静

(退会)

明治鍼灸短期大学(4年制移行のため)

行の予定

5. 58年度予算案

6. その他・次回総会開催地(長崎)九州地区大学図書館協議会の当番が長崎大学の為
・59年度九州地区の会長校は、佐賀・長崎地区になるので考えておいてほしい。

〔講演〕「書物閑談」

講師 大塚幸男先生(福岡大学人文学部教授)

研修 懇談 雑誌目録の作成方法の検討, その他
研修会終了後、公立短大、私立大学、私立短大共催の懇親会を持った。

<中国・四国地区>

昨年暮に開催された第1回総会で、中国・四国地区もできるだけ早く規約を作ることを申しあわせました。その為にだけ会合を開くこともできませんので、規約の原案を加盟各館に郵送して審議をお願いし、漸く成立しました。内容は特別変わった点はありませんが、各種の協議が集まらなくてもできるようにになりました。

ただ今、雑誌目録を中国・四国地区でも作るかどうか総会なり研修会なりを、他の会合の機会を利用したりなどして持つことができるかどうか、などについてのアンケートを、幹事校の比治山女子短大のお世話で集計中です。結果がまとまりましたらお知らせできる折もあらうかと思えます。

それにしても、小規模の館はきびしいですね。当館も兼任の館長を含めて四人しか居ません。今日も中1人が年休をとっていますので、窓口業務以外のことは、落着いてできそうにありません。

<九州地区>

昭和58年度総会および研修会

日時:昭和58年4月25日(月) 11:00~17:00

会場:ひびき荘(北九州)

参加者:15館19名

1. 会勢報告
2. 会計報告
3. 事業報告
 - ・全国理事会出席(4月)
 - ・加盟館館員名簿作成(9月)
 - ・事務局(東京女子大短大部)よりの連絡物はすべてコピーし配布
4. 58年度事業計画
 - ・昨年作成した名簿を今後どうするか、各館所定の用紙にタイプして、必要枚数コピーし、事務局に送り、事務局はそれをとじる方法で毎年発行する。
 - ・雑誌目録 5月末各館依頼 7月末回収 9月発

私立短図協の歩み<昭和55年度~昭和57年度>

55. 3. 短期大学図書館研究創刊号刊
4. 2 近畿地区第7回研修懇談会 帝塚山学院短大
5. 7 九州地区協議会設立総会 西南女学院短大
- 5.13 東海・北陸地区第1回幹事会第1回研修会 愛知淑徳短大
6. 3 全国理事会 JLA
6. 4 昭和55年度第4回私立短図協総会 伊藤伊別館
- 7 会報6号
- 7 関東・甲信越地区短期大学図書館雑誌紀要総目録刊
- 8.26 昭和55年度北海道地区研修会 講演「公共及び大学・短大図書館におけるレファレンスサービスの進め方」北島武彦氏
9. 近畿地区短期大学雑誌目録刊
10. 私立短期大学図書館総覧<集計・分析>刊
- 10.30 昭和55年度第2回全国理事会 鹿児島市
- 11.26 昭和55年度東海・北陸地区総大会 於・愛知淑徳短大 講演「図書館についてのあれこれの模索」勅使逸雄氏
12. 会報7号
- 12.20 東北地区研修会 桜の聖母短大
56. 1.26 東北地区第2回研修会「NCR訂改に伴う目録の扱い方について」
- 3.11 東海・北陸地区第2回研修会 瑞穂短大
3. 短期大学図書館研究第2号刊
- 3.24 関東・甲信越地区昭和55年度総会 JLA講演「短大図書館の図書整理(分類と目録)雑感 もり・きよし氏
- 3.27 近畿地区第9回研修懇談会 帝塚山学院短大 講演「マイコンと図書館」中嶋正夫氏
56. 4.17 昭和56年度北海道地区総会 北海道武蔵女子

- 短大
5. 19 昭和56年度東海・北陸地区第1回研究会
愛知淑徳短大
5. 28 昭和56年度第1回理事会 渋谷
5. 29 昭和56年度私立短図協総会・大会 東京ほるぷ
中央研修所 講演「これからの短大図書館の
あり方」安部登己氏
7. 会報8号
7. 30 近畿地区第10回研修懇談会 平安女学院短大
講演「NDCの諸問題」浅野十糸子氏
7. 近畿地区短期大学雑誌目録補遺版刊
9. 12 北海道地区総会・研修会 札幌市教育文化会
館講演会「いまの子どもたちと図書館」
松岡享子氏
10. 29 昭和56年度第2回全国理事会 浦和市
11. 4 昭和56年度東海・北陸地区総大会
名古屋短大
講演「図書館界の動向—図書館事業振興法案
について 安部登己氏
12. 会報9号
57. 1. 30 東北地区研修会 聖霊女子短大「NDC新訂
8版移行に伴う諸問題」
3. 19 昭和56年度九州地区総会 西南女学院短大
講演「図書館界の動向」安部登己氏
3. 23 昭和57年度関東・甲信越地区総大会 JLA
講演「半生紀の図書館生活」木寺清一氏
3. 短期大学図書館研究第3号刊
4. 2 昭和57年度近畿地区総会・研修会(13回)
講演「中小図書館と整理委託」藤井千年氏
4. 23 昭和57年度北海道地区総会 北海道武蔵女子
短大
4. 26 昭和57年度九州地区総会
城山共済会館(鹿児島市)
5. 1 菅原春雄編「図書館員になるには」刊
5. 18 昭和57年度第1回全国理事会 私学会館
5. 19 昭和57年度私立短図協総会 東京 社会文化
会館
5. 19 第1回短期大学図書館全国研修会 東京 社
会文化会館
20. 講演「中小図書館における整理業務の合理
化と省力化 もりきよし氏」○講演「マイ
クロコンピュータと図書館」片山喜八郎氏
○マイコン研修
57. 7. 1 東海・北陸地区「私立短期大学図書館雑誌目
録」刊
7. 会報10号
8. 27 東海・北陸地区昭和57年度総大会 於 北陸
学院短大
11. 16 東海・北陸地区研修会(13回)
講演「大学図書館の蔵書構成」河井弘志氏
11. 会報11号<創立5周年特集>
11. 20 北海道地区研修会, 北海道武蔵女子短大
○北海道地区における図書館業務に関するコ
ンピュータ実務研修会・講演「マイコンと
図書館」片山喜八郎氏
12. 11 東北地区研修会「短大図書館の近代化・キカ
イ化これに伴う諸問題」
講師 渡辺敏一氏 屋島正機氏
12. 15 東海・北陸地区研修見学会 愛知淑徳短大
12. 21 中・四国地区総会・研修会
講演「短期大学図書館の在り方」もりきよし氏
58. 1. 会員校 225 校になる。
2. 会報12号
3. 23 関東・甲信越地区57年度総大会
JLA, 講演「短期大学図書館における参考
業務の在り方」北島武彦氏
3. 31 遠藤英三著「資料組織化の実践」刊
3. 31 短期大学図書館研究第4号 刊

— 新刊紹介 —

中国書物物語 劉国鈞 鄭始斯著 松見弘道訳
創林社 '83・7刊 225(, 11) P
B6 ¥1,600

わたしたち図書館員は、図書館的知識とともに図書そのものを知ることが前提である。つまり図書館学ないし書誌学が大切である。戦前の司書養成では「書誌学」にかなりウェイトがおかれていたが、現行の課程では軽く取扱われているようにも見える。それはさておき、このたび東海女子短大の松見教授が頭記の訳本を出版されたことは、まことにうれしい。原書名は『中国図書物語』旧著ではあるが青少年、学徒を対象にした名著でベスト・セラーズの1つであったという。のち愛弟子・鄭女史によって修訂3版となったものである。

劉先生は戦前から図書館大家として著名で『中国図書分類法』ほか多くの著作がある。訳者は大谷大学で中国学を専攻され、戦後の中国訪問で劉先生に親しく師事し深い交流があった。この訳者の手によるなめらかな訳文は懇切な注と原著の挿図を含む日本語版は、中国図書学の階梯として好著であろう。敢えてここに推せんしたわけである。

(もり・きよし)

＜ 事 務 局 報 告 ＞

| | | | | |
|-------|-------------|----|---------|-----|
| △ 会 勢 | 北 海 道 | 16 | 近 畿 | 49 |
| | 東 北 | 12 | 中 ・ 四 国 | 23 |
| | 関 東 ・ 甲 信 越 | 70 | 九 州 | 27 |
| | 東 海 ・ 北 陸 | 26 | 合 計 | 223 |

△ 新規加盟館紹介

関東・甲信越地区

- ・ 桐朋学園大学短大部
- ・ 埼玉純真女子短大
- ・ 城西大学女子短大部

近畿地区

- ・ 湊川女子短大
- ・ 神戸学院女子短大
- ・ 京都文化短大

※退会 近畿地区 明治鍼灸短大(4年制移行のため)

△ 役員会

全国理事会

58.5.26(木) 於横浜 大佛次郎記念館

協議事項

- ①昭和58年度総会への提出案件の審議(詳細総会記録参照)

本部役員会

- ・ 昭和57年度第8回(58.2.25(金) J L A)

協議事項

- 1) 「短期大学図書館第4号」の件(継続)
- 2) 次期運営体制の件
- 3) J L A 短大会幹事推薦の件
- 4) その他

- ・ 昭和58年度第1回(58.4.1)(金) J L A

協議事項

- 1) 次期運営体制の件(継続)
- 2) 昭和58年度全国理事会の件
- 3) 昭和58年度短大図書館全国研修会の件(継続)
- 4) 昭和58年度事業計画の件
- 5) 昭和57年度決算の件
- 6) その他

- ・ 昭和58年度第2回(58.5.9)(月) J L A

協議事項

- 1) 次期運営体制の件(継続)
- 2) 昭和57年度決算の計(継続)
- 3) 昭和58年度事業計画及び予算の件(継続)
- 4) 昭和58年度総会の件

- ・ 昭和58年度第3回(58.7.5)(火) J L A

協議事項

- 1) 昭和58年度総会の件(継続)
- 2) 昭和58年度短大図書館全国研修会の件(継続)
- 3) I F L A 準備委員会の件

△短期大学図書館研究第4号目次紹介

間宮不二雄大人と中国図書館人

松見 弘道

新図書館建設とその管理システムの概要

上沢田 浩

本邦分類関係文献年表稿Ⅱ(昭和前期)

もり・きよし

本学の図書館利用状況について

水野 寿子

図書館の教育利用について

長沢 千恵

日東文庫のこと一下村文庫余録2一

坂本 龍三

短期大学図書館に関する文献目録追録'82

菅原 春雄

三島由紀夫: 1970. 11. 25 書誌

中村佐恵子

第1回短期大学図書館全国研修会報告<昭和57年度>

講演「整理業務の合理化、省力化について」もりきよし
共同討議「事例研究」整理業務の合理化と省力化

講演「マイコンと図書館」

片山喜八郎

1983. 3. 31 89 P 頒価 ¥ 3, 000 (送料共)

△第5号原稿募集

応募要項は毎号巻末に記載されておりますが、積極的なご投稿お待ちしております。

第5号原稿〆切 58. 11. 末日

投稿先 ㊟ 181

東京都三鷹市牟礼4-3-1

東京女子大学短期大学部図書館内

私立短期大学図書館協議会事務局

電話 0422 45 4145

△図書館員による利用教育ワークショップ

標記研修会が、J L A 短大会主催で東京女子大学短大図書館において、9月1日-2日の2日間にわたり、26名の参加のもとで盛会に行われた。

第1日目

東京大学教授長沢雅男氏の利用教育における理論及び実施例の紹介など行なわれ、また各校の実施例が発表され、参考になった。

第2日目

大阪女学院の丸本郁子氏により指導が活発に行なわれ、まず事前に作成してきた指導案(90分で30名対象)について各自発表し、それに対する質疑及び評価が行なわれ、今後実施する場合、大いに参考になった。討議及びディスカッションも熱が入り、時間の過ぎるのもわすれるぐらい、次回も開催してほしい。研修会資料集の刊行、利用教育に関する参考資料センターの設置などの要望もあり有意義なワークショップであった。

〔注〕図書館利用指導ワークショップ報告書

—指導案を中心として—

J L A 短大会 1983 ¥ 500

問合せ: J L A 短大会事務局

Tel 0422 45 4145

廉価本の紹介コーナー

皆さんの図書館における資料収集の一助となればと考え、事務局が書店等から得た情報の中から、廉価で購入できるものを選んでご紹介してみました。

購入ご希望の場合は、ハガキに①書名、②売価、③購入時必要書類を記入の上、事務局宛お送り下さい。

記

| | 書名 | 定価 | 売価 |
|-----|----------------|---------|---------|
| 平凡社 | 世界大百科事典83年版 | 198,000 | 150,000 |
| " | 旧版 全35巻 | 86,900 | 75,000 |
| 小学館 | 万有百科大事典82年版28巻 | 148,400 | 75,000 |
| | 本巻のみ 23巻 | 121,900 | 60,000 |
| | 広文庫全20巻 復刻版定価 | 200,000 | 90,000 |
| 大修館 | 大漢和辞典 全13巻 | 140,000 | 100,000 |
| 小学館 | 日本国語大辞典 全10巻 | 78,000 | 50,000 |
| 学研 | 日本美術全集全25巻付別1 | 137,500 | 70,000 |
| 小学館 | 原色日本の美術全30巻 | 169,600 | 80,000 |

| | | | |
|-------|---------------|---------|---------|
| 集英社 | 超ワイド版現代日本の美術 | 93,600 | 72,000 |
| 学研 | 大系世界の美術全20巻 | 190,000 | 140,000 |
| 集英社 | 超ワイド版現代世界美術全集 | 130,000 | 85,000 |
| 筑摩書房 | 現代日本文学全集全69巻 | | 70,000 |
| 中央公論社 | 日本の文学 全80巻 | 120,300 | 60,000 |
| ほるぶ | 日本の詩 全25巻 | 57,500 | 27,000 |
| 中央公論社 | 三田村鳶魚全集全27巻 | 48,600 | 35,000 |
| 新潮社 | 日本文学大辞典全4巻 | 20,000 | 12,000 |
| 明治書院 | 研究資料現代日本文学全7巻 | 28,700 | 20,000 |
| 弘文堂 | 講座家族 全8巻 | 18,900 | 12,000 |
| 河出書房 | 日本生活文化史全10巻 | 42,000 | 20,000 |
| 世界文化社 | 日本歴史シリーズ全22巻 | 26,400 | 16,000 |
| 小学館 | 図説人物日本の女性史全12 | 21,600 | 14,500 |
| ぎょうせい | 日本の城下町 全12巻 | 33,600 | 23,500 |
| ほるぶ | 趣味の家庭園芸全10巻 | 38,000 | 28,000 |

(趣味と生活社刊)

△本協議会々長もり・きよし先生喜寿迎える

今年8月満77才の喜寿を迎えられ、その祝賀会が、去る9月14日午後6時から東京〃中野サンプラザで、百数十名の参加者、北は北海道、南は鹿児島まで、もり先生の喜寿をお祝いにかけつけていた。

本協議会でも発起人メンバーに加わり、積極的協力や参加もし、応待〃準備に力を注いだ。

当日この喜寿を記念して記念論文集「知識の組織化と図書館」が献呈された。

なお、この本は日外アソシエーツより発売されている。

△原稿募集 ご投稿お待ちしております。

昨年より会報年3回発行することになりました。

会報は加盟館に最新の情報をお届けするわけですが、つきましては、積極的なご投稿、よろしくお願ひします。期日はとくに定めませんので、思い出したらすぐ書いて出していただければ幸いと存じます。内容は、新館紹介〃貴館における問題点、交換コーナー、求人、求職コーナー、地区における話題等どしどしお送りくださいますよう、となりの人にもよびかけてください。

★編集後記★

会報第13号をお届けいたします。本年度も会報年3回発行を目指し、計画していたのですが、今年度は例年とちがって、総会が諸事情で8月になり、本来なら、第13号は7月に発行すべく準備をしましたが、7月では、総会、研修会記録も掲載できない。それで役員会に相談したところ、発行を少し伸ばし、8月の総会、研修会記録記事を収載しようとのことで、今回発行が大変おくれたこと、おわびいたします。

△もう秋のおとずれ、夏には第2回の全国研修会、大阪と東京で延8日間、定員オーバーの盛会ぶり、これも昨年より準備に準備を重ね、無事終了したことも、そのかげには国学院栃木の片山先生、また事務局の渡辺氏、この両氏には多大なご苦勞おかけしまして感謝にたえま

せん。この成果が図書館界から注目され、マイコンの短大図書館、“機械化の二巨頭”と公言されてもいます。

△これからの短大図書館界にあっては、現在このように機械化〃省力化が問われている。また利用教育の促進も必要であるが、時には、もう1度短大図書館の実情を分析し、原点に戻り、基本的低辺の高上げも考えて行く必要があるような気がします。

会長が日頃云っているように、例えばスタッフマニュアルの整備も検討して行く必要があります。

△今年度より役員も変り、フレッシュな人材が整って来たことは、うれしいことであり、これからの活躍〃発展が期待されます。

△安部・芝原理事、杉山幹事役員大変ご苦勞さまでした。(すがわら記)